

黒石市立小・中学校適正配置第1回検討委員会会議概要

1. 日 時 平成22年4月27日（火） 午後1時30分～

2. 場 所 黒石市産業会館 4階 大会議室

3. 会議次第

1. 開会のことば
2. 辞令交付
3. 教育長あいさつ
4. 自己紹介
5. 委員長・副委員長選出
6. 諮問書交付
7. 審議案件
 - ① 適正配置を検討する背景・意義について

【質疑応答】 ※ （○印は委員の意見、→は事務局の回答）

○ 牡丹平小学校が複式学級と伺ったが、どの学年で何人の複式学級になっているのか。

→ 今年度4月1日で、3年生が5人、4年生が9人の計14人の複式学級である。

○ 地区の人口が5年後にどうなるのか。高齢化を考えた時に、5年後にはどういう人口構成比が地区別に考えられるのか。今、子供たちの人数が少なくなって、同じように黒石市全体の人口も落ちてくる。できれば図、棒グラフでの資料が欲しい。あと、要保護・準要保護の割合もかなり増えているのではないかと。割合が増えているときに、5年後に誰がその面倒をみるのか、できればその数値も次回数字とか図であげられないか。

○ 学区外通学は、現在どのくらいあるか。中郷小学校の場合は、青山の生徒たちが随分東小学校に通っている。学区の問題も絡んでくると思うので、学区外通学の理由と人数も教えて欲しい。

○ 黒石には10地区あるので、その地域の世帯数と人口を表したものを準備して欲しい。

○ 学習適応教室の人数は。

→ 学校に籍を置いて学習適応教室にも通っているという考え方をしてもらえばよろしいかと思う。今現在では1桁だと思っている。

○ 小・中学校で、全国レベルの学力テスト等をやっているが、学校名は公表しなくてもいいので、データとしての資料が欲しい。

→ 学校が特定できるようにはなっていないので、全市的な状態での学力ということで出せる範囲内で出します。

○ 大規模校、小規模校のメリット・デメリットという部分での資料がもしあれば、参考になるのではないかと思います。

○ 今日を除いてあと8回検討委員会があるが、それぞれの会での検討内容を絞っているのか、それとも毎回オープンで進めていくのか。

→ 今後の検討委員会の持ち方について、ここにいる委員の皆さんの中から何人かで幹事会的なものを、4、5人程度で組織し、事前に次回について検討をしていただきたいたいと思っている。5月中に幹事会で一度検討してから、会議にはかるという形を取らせていただきたい。

○ 6月の第2回検討委員会は、耐震診断の発表の後ということになるか。

→ 多分まだ出てないと思われる。

○ 公表は6月と聞いていたのだけれども、また延びたのか。

→ 実際の公表は、広報で正式に公表するということになるが、早ければ7月1日号に掲載予定である。結局、資料のやり取りが生じたりするとずれてくるので、7月15日号の広報で公表となることもある。今のところ、1回目の判定にかかったというところまでは言えるが、後はまだですので、時期は明確には言えません。

○ 今日の感想なり意見を紙に書いてもらって、こうした資料が欲しいとか、運営の仕方とか意見、感想を書いたのを集めてもらいたいのですが。

→ 早速取り組みたい。近々郵送する。

諮 問 書

黒 教 学 第 1 2 7 号
平成 2 2 年 4 月 2 7 日

黒石市立小・中学校適正配置検討委員会委員長 殿

黒石市教育委員会
教育長 横山 重三

黒石市立小・中学校の適正配置について（諮問）

黒石市立小・中学校適正配置検討委員会規則第 2 条の規定に基づき、下記事項について諮問します。

記

1 市立小・中学校の適正配置に関すること

（理 由）

近年、我が国は、科学技術の進歩や情報化の急速な進展など、めざましい発展をたどる一方、少子・高齢社会が一段と進行するとともに、核家族化や地域の人間関係の希薄化が進むなど、教育環境がめまぐるしく変化しています。

黒石市においても、少子化の進展や地域社会の変化に伴い、地域によって異なる教育環境が生じています。

このような状況から、本市の学校教育の一層の向上のために、将来的な視野に立った教育環境の検討が必要となっています。

そこで、子どもたちにとってより良い環境とはどのような環境であるのか、本市の歴史や文化、地域の実情を考慮のうえ、適正配置について総合的な視点でご検討いただくようお願いします。